

副産物情勢

2月14日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容	備 考
内 臓	1.国産牛	○ 12月の成牛と畜頭数は、100.3千頭(前年比102.9%)と前年を上回った。 内訳を見ると、和牛:51.8千頭(前年比108.2%)、交雑牛:25.0千頭(同98.5%)、乳牛去勢:9.8千頭(同93.3%)となった。 ○ 1月の成牛と畜頭数は、速報値(1月31日まで集計)で84.0千頭(前年比98.7%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(1月29日公表)によると、1月、2月の出荷頭数は、交雑種が増加するものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから前年同月を下回ると予測する。(1月 82.6千頭(前年比96.5%)、2月 78.4千頭(同93.0%)) 3か月平均(12月～2月)では、出荷頭数88.9千頭(前年比99.7%)、生産量28.5千 ^ト (同99.8%)と前年並みの予測となっている。 ○ 需 給 動 向：赤物はタン・ホホ等の引き合いが継続しているものの、レバー・テールは引き合いが例年より弱く、余剰感が継続している。 白物は、需要期である小腸は期待ほどの荷動きがなく、市中在庫が積みあがっている。シマ腸の余剰感も強まっているが、一方で煮込み商材であるアキレスやメンブレンの荷動きは堅調。	1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月 26日 25 5 令和3年10月 18日 35 7 令和4年2月7日 25 5 令和4年4月4日 35 7 令和4年8月8日 45 9 令和6年12月2日 48 9
	2.国産豚	○ 12月の全国豚と畜頭数は、1,464千頭と前年並みとなった。(前年比100.2%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道107.3%、東北95.4%、関東99.0%、北陸甲信越99.2%、東海102.6%、近畿103.2%、中四国102.7%、九州・沖縄100.9% ○ 1月の全国と畜頭数は、1,414千頭(速報値1月31日まで集計、前年比100.0%)と前年並みの見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年と同数で、1日当たりの平均と畜頭数は74,416頭(前年実績:74,430頭/日、前年差▲14頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;1月20日付け)によると、2月;1,344千頭(前年比98%)、3月;1,457千頭(同106%)、4月;1,403千頭(同100%)、5月:1,342千頭(同99%)、6月:1,307千頭(同110%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約102%と前年を上回る見込み。 ○ 需 給 動 向：2月の出荷頭数が前年を下回ると予想されることから、発生量は低調に推移するものの、需給はもちあいでの推移を見込む。 赤物は、冷蔵品の荷動きは全部位を通して概ね堅調。冷凍品もカンラ肉を中心に引き合いが継続している。 白物は、小腸ボイル・大腸ボイルが例年に比べ荷動きは多くないものの、ガソ、直腸の需要は引き続き堅調で推移。	※乳牛45円/kg ※豚正貫物 2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月19日 25 3 令和3年10月 15日 35 4 令和4年2月1日 25 4 令和4年3月28日 35 4 令和4年8月1日 45 5 令和6年12月2日 48 5
	3.輸入牛	○ 12月の輸入通関実績は、全体で39.2千 ^ト と前年を上回った(前年比108.6%、前月比113.3%)。 内訳ではチルド:16.0千 ^ト (前年比106.4%、前月比117.2%)、フローズン:23.2千 ^ト (前年比110.2%、前月比110.8%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州、ニュージーランド、カナダが増加し、フローズンは、豪州、米国、メキシコが増加した。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、国内需要の低迷により低調に推移する中、1月は豪州および米国からの輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月を下回ると予測し、2月は、低調に推移するも、前年同月の輸入量が少なかったこと等から上回ると予測する。フローズンについても輸入品在庫が高水準であること等により低調に推移する中、1月はほとんどの輸入先からの減少が見込まれることから下回ると予測する。2月は、低調に推移するも、前年同月の輸入量が少なかったこと等から上回ると予測する。3か月平均でも、チルドは上回り、フローズンは下回ると見込んでいる。 令和7年1月 合計:34.7千 ^ト (前年比80.2%)、チルド:14.5千 ^ト (同85.5%)、フローズン:20.2千 ^ト (同76.9%) 令和7年2月 合計:32.7千 ^ト (前年比105.4%)、チルド:14.1千 ^ト (同112.8%)、フローズン:18.6千 ^ト (同100.6%) ○ 輸入牛内臓実績(令和6年12月): 牛腸(冷凍);1,388.2 ^ト (前年比124.9%・前月比100.0%) 国別実績;米国1,021.5 ^ト 、豪州173.7 ^ト 、メキシコ144.2 ^ト 、カナダ45.3 ^ト 、スペイン3.4 ^ト 牛レバー(冷凍);46.0 ^ト (前年比44.4%・前月比113.2%) 国別実績;豪州37.0 ^ト 、米国8.1 ^ト 、チリ0.9 ^ト	3.東京市場原皮価格 ※交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和牛) 豚原皮 令和元年7月22日 700 10 令和2年3月16日 500 10 令和2年6月15日 100 10 令和2年7月20日 100 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年5月24日 10 10 令和5年10月16日 10 2
原 皮	1.牛原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 6 年 12 月)：59,858枚(前年比111.5%、前月比128.1%) 国別実績;タイ53,248枚(前年比129.1%)、韓国5,460枚(同67.0%)、フィリピン1,150枚(同104.5%) 輸出平均価格(令和6年12月): 2,819円/枚(前年差+313円、前月差+165円) ○ 輸 入 実 績 (令 和 6 年 12 月)：牛大判皮25,906枚(前年比147.1%、前月比93.9%)、ウェットブルー15,077枚※(同63.7%、同111.3%) ※4.4m ² /枚で計算 輸入平均価格(令和6年12月): 牛大判皮7,159円/枚(前年差△1,596円、前月差△689円)、ウェットブルー8,898円/枚(同△3,627円、同△226円) ○ 海 外 情 勢：前月より上昇したが、依然として世界的に価格低迷は続いている。引き続きタイ向けの割合が増加している。(全体の約9割) ○ 国 内 情 勢：ホルス去勢以外の引き合いは弱い。低価格での流通が続いている。	4.大阪市場原皮価格 ※交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和ヌキ) 豚原皮 令和元年8月15日 1,000 10 令和2年3月16日 800 10 令和2年6月22日 300 10 令和2年7月27日 300 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年6月1日 10 10 令和5年10月23日 10 2
	2.豚原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 6 年 12 月)：1,098,850枚(前年比92.1%、前月比105.8%) 国別実績;タイ793,030枚(前年比86.5%)、カンボジア155,300枚(同100.8%)、ベトナム108,240枚(同141.1%)、韓国42,280枚(同92.2%) 輸出平均価格(令和6年12月): 348円/枚(前年差△9円、前月差+6円) ○ 需 給 動 向：昨年前半までは需要回復への期待感から価格は上昇傾向にあったが、実際の需要が伴わず9月以降下落している。引き続きドル単価では過去最低水準が続いている。 モノは流れているが、価格上昇までには至っていない。	5.食用加工油脂価格 単位:円/kg 価格改定年月日 牛脂 豚脂 令和4年7月1日 195 190 令和5年1月1日 175 175 令和5年4月1日 165 175 令和5年7月1日 155 165 令和5年10月1日 145 155 令和6年7月1日 145 145 令和7年2月1日 155 155
レンダリング	1.油脂等	○ 国産食用加工油脂向け価格(2月渡し): 牛脂155円/kg(前年差+10円、前月差+10円)、豚脂155円/kg(同±0円、同+10円) 牛脂は、大手ファストフードチェーン向けと石鹼向けの需要が底堅いことに加え、カレールーが需要期にあることから荷動きは堅調に推移している。 豚脂は、肉豚の生産コスト高により出荷日齢が早期化傾向にあることから発生量が抑えられている。ラーメン店向けの出荷も堅調であり、需給は引き締め傾向。 ○ マレーシア産パーム油相場(1月): 201円/kg(前年差+56円、前月差△15円) 12月生産量は148万トン(前月比91.7%)、輸出量は134万トン(同90.0%)、月末在庫は170万トン(同93.1%)となった。 生産量が減産期であることに加え、バイオ燃料の需要が依然堅調であることから、今後も底堅い相場推移を見込む。 ○ 関 東 飼 料 用 油 脂 (1 月)：114円/kg(前年差△10円、前月差±0円) ○ 工 業 用 油 脂 (1 月)：95円/kg(前年差±0円、前月差±0円) ○ UCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格(1月): 123円～126円/kg程度(前年差±0円、前月差±0円)	